

国語問題

〔注 意 事 項〕

一、試験開始の合図あいづがあるまで、開かないこと。

二、問題は二・三で、十九ページにわたって印刷してあります。

ページが抜けるなどしていた場合には、試験監督かんじくの先生に申し出なさい。

三、解答は、すべて解答用紙に記入し、受験番号・氏名をもれなく、正確に記入すること。

四、問題冊子の表紙にも、受験番号・氏名を必ず記入すること。

受験番号

氏名

◎文中からそのまま抜き出して答える場合、句読点や記号は一字とすること。また、ふりがなのある漢字は、ふりがなをつけなくともかまいません。

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

草児そうじは両親の離婚りこんをきっかけに母親の実家で祖母と三人で暮らしあげた。引っ越す前たつたひとりの友だちであつた文ちゃんぶんちゃんとは、保育園からの幼なじみである。ある日、草児はおこづかいの足りない文ちゃんに自分のお菓子か代をわたしてしまい、そのまま引っ越して離ればなれになってしまった。

転校してきた日、黒板に大きく書かれた「宮本草児」という文字の前で自己紹介みやもとをしている時、誰かが笑つた。「なんか、しゃべりかたへんじやない?」と呟いたのも聞こえた。

ひとりが発した笑い声は、ゆっくりと教室全体に広がつていった。ふ風に吹かれた草が揺れていようだつた。風はやがて止んだが、草児はもう口を開くことができなかつた。黒板に書かれた「宮本草児」という名も他人のもののように感じられた。

両親の離婚を受け入れたことと自分が母の名字を名乗ることになったことは、また別の話なのだ。

あタンニンの先生は笑つた生徒を注意するわけでもなく、自己紹介を途中でやめた草児に続きを促すわけでもなく、授業をはじめた。

強いものと弱いもの。頭のよいものとよくないもの。教室には異なる種の生物が共存している。くつきりと一分されているわけではなく、あるものは足がはやく勉強ができるが、性質がおとなしく、あるものはどちらもそこそこであるが空気をあやつるのがとてもうまく、声が大きい。力の関係は状況に応じて微妙に変化し、ぎりぎりのところで均衡こうをたもつ。均衡こうという言葉は最近、図鑑かんで覚えた。バランスと表現するよりかつこいい。

転校してくる前の草児が、そんなふうに考えたことは一度もなかつた。世界はもつと、ほんやりとしていた。自分がその世界の一部だつたからだ。今は違う。世界と自分とがくつきりと隔てられている。ガラスだかアクリルだかわからないけど、なんだか分厚い透明ななにかに隔てられている。⁽³⁾

そう思うことで、むしろ草児の心はなぐさめられる。自分はこの学校になじめないのでなくして、ただ博物館で展示物を見ているように透明の仕切りごしに彼らを観察しているだけ、というポーズでどうにか顔を上げていられる。⁽⁴⁾

今日はひとことも喋らない日だつた。授業でも一度も当てられなかつたし、消しゴムも落とさなかつた。木曜日はつまらない。博物館の休館日だからだ。

家に帰ると、めずらしく母がいた。「シフトの都合⁽⁵⁾」で、急きよ休みになつたのだという。

ビールでも飲んじやいますかねえ、などと冷蔵庫を A 開ける母は以前よりすこし痩せた。明るい時間に顔を合わせるのはひさしぶりだつた。祖母はいない。買い物に行つたという。

母はこの街に来て三日目に「仕事決まつた!」とはしゃいでいた。百円ショッピングの店員となつた母は、そのあとしばらくして「もつと稼がなきや」と言い出し、夜中の二時まで営業しているという釜めし屋の仕事を見つけてきて、昼も夜も働くようになつた。たまに、売れ残りの釜めしを持ち帰る。それらは B 翌日の草児の朝食か、母の弁当になる。

細長いコップにソソいだビールを三口ほどで飲み干した母は、草児の視線に気づいて「へへ」と照れたように肩をすくめる。なにかをこまかすように「草ちゃんもなんか飲む? 麦茶とか」と訊ねる。草児は黙つたまま C を振つた。

『中略』

「シフトの都合」で予定外の休みをもらつた母は、同じ理由で休みがなくなつた。十連勤だなんて冗談じやないよとほやいていたのは最初の数日だけで、半ば頃になると家にいる時は無言でテーブルにつつぶしているだけの、物言わぬ生物になつた。祖母はなんだか近頃調子が悪いといつて、日中も寝てばかりいた。

(注1) 古生代の生物たちも、こんなふうに干渉し合うことなく、暮らしていたのかもしれない。同じ家の中にいても、ほとんど言葉を交わさない。母や祖母の気配だけを感じつつ、ひとりで食卓に置かれたパンや釜めしを食べた。味がぜんぜんわからなかつた。給食もそうだ。甘いとも辛いとも感じない。誰かと同じ空間にいても、人間は簡単に「ひとり」になるものだと、こんなふうになるずっと前から知つていた。

博物館の前に立ち、「本日休館日」の立て札を目にしたくなり、動けなくなってしまった。今日は木曜日だということをすっかり忘れていた。⁽⁵⁾ 一色の絵の具で塗りつぶしたような毎日の中で、曜日の感覚が鈍っていたのかもしれない。

ワチャヤーというような声が頭上から降つてきて、振り返つた。このあいだムササビの骨格標本を見上げていた男が草児のすぐ後ろに立つていた。今日は灰色のスーツを着ている。男の指がすつと持ち上がって、立て札を指す。ちょっと異様なぐらいに長く見える指だった。

「きみ知つてた？ 今日休みつて」

「うん」

男があまりに情けない様子だったので、つい警戒心がゆるみ「知つてたけど忘れてた」と反応してしまう。

「そうかあ」

中に入れないのならば、帰るしかない。背を向けて歩き出すと、男も後ろからついてくる。公園から出るには同じ方向に向かうしかないからあたりまえのことなのだが、気になつて何度も振り返つてしまつ。

「どうしたの？」

草児の視線を受けとめた男が、ゆつたりと口を開く。なにを勘違いしたものか「なに？ 腹減つてんの？」と質問を重ねる。違う。とつさに答えたが、嘘だつた。腹は常に減つている。

男のアクセントはすこしへんだった。このあたりの人とも、草児とも違う。そのくせ、すこしも恥じてはいないうだ。「あ、これ食う？」

書類やノートパソコンが入つていそうな鞆から、蒲焼きさん太郎が出てきた。差し出されたそれを草児が黙つて見ていて、男はきまりわるそうに下を向き、ホウソウを破いて、自分の口に入れた。

「そうだよな、あやしいよな。知らないおじさんが手渡してくる蒲焼きさん太郎なんか食べちゃだめだ」
しつかりしてゐるんだな、えらいな、うん、と勝手に納得し、男はベンチに座つた。鞆から、つぎつぎとお菓子が取り出される。いくつかのお菓子には見覚えがあり、そのほかははじめて目にする。うまい棒とポテトスナックは知つてゐるが、なんとかボールと書いてあるお菓子は知らない。

「あの、なんで、そんなにいっぱいお菓子持つてゐるの」

おそるおそる問う。この男は草児が知つてゐるどの大人とも違う。男はすこし考えてから「さあ？」と首を傾げた。自分自身のことなのに。

「安心するから、かな」

うまい棒を齧りながら、男は「何年か前に出張した時に」と喋り出した。帰りの新幹線が事故で何時間もとまつたまま、という体験をしたのだという。いつ動き出すのかすらまったくわからなくて、不安だつた。でも、新幹線に乗る前に売店で買ったチップスターの筒を握りしめていると、なぜか安心した。その時、思いもよらないものが D くれることもあるんだな、と知つた。あれは単純に「食料がある」という安心感ではなかつた、たとえば持つていたのが乾パンなどの非常食然としたものだつたらもつと違つた気がする、だからお菓子というものは自分の精神的な命綱のようなものだと思つたのだ、というようなことをのんびりと語る男に手招きされて、草児もベンチに座つた。いつでも逃げられるように、すこし距離をとりつつ。

草児が背負つていたリュックからオレンジマーブルガムのボトルを出すと、男は「なんだよ、持つてるじゃないか」とうれしそうな顔をする。自分のガムはただのおやつであつて、命綱なんかではない。

やつぱへんなやつだ、と身を引いた拍子に、手元が狂つた。容器の蓋が開いてガムがばらばらと地面にこぼれ落ちる。草児

は声を上げなかつた。男もまた。映画館で映画を観るように、校長先生の話を聞くように、唇を結んだまま、丸いガムが土の上を転がつていくのを見守つた。

気づいた時にはもう、涙があふれ出てしまつていた。なみだ頬を伝つていく滴は熱くて、でも顎からしたたり落ちる頃には冷たくなつていた。

どうして泣いているのか自分でもよくわからなかつた。ガムの容器の蓋をちゃんとしめていなかつたこと。博物館の休みを忘れていたこと。男が蒲焼きさん太郎を差し出した時に蘇よみがえつた、文ちゃんほおと過ごした日々のこと。

樂しかつた時もいっぱいあつた。

それなのに、どうしても文ちゃんに嫌いやだと言えなかつたこと。嫌だと言えないと自分が恥ずかしかつたこと。別れを告げずくに引つ越してしまつたこと。

父が手紙をくれないこと。自分もなにを書いていいのかよくわからないこと。

今日も学校で、誰とも口をきかなかつたこと。算数でわからないところがあつたこと。でも先生に訊けなかつたこと。母がいつも家にいないこと。疲つかれた顔をしていること。祖母から好かれているのか嫌きらわれているのかよくわからないこと。いつも自分はここにいていいんだろうかと感じること。

男は泣いている草児を見てもおどろいた様子はなく、困惑わくするでもなく、かといつて慰めようとするでもなかつた。ただ

「いろいろ、あるよね」とだけ、言つた。

「え」と訊きかえした時には、涙はとまつていた。

いろいろ、と言つた男は、けれども、草児の「いろいろ」をくわしく聞きだそうとはしなかつた。

「いろいろある」

草児が繰り返すと、男は食べ終えたうまい棒の袋を細長く折つて置たたみはじめる。

「ところできみは、なんでいつも博物館にいるの？」

(7) 「だよね、いつもいるよね？」と質問を重ねる男は、草児がいつもいるとわかるほど頻繁に博物館を訪れているのだ。

「恐竜とかが、好きだから」

大人に好きなものについて訊かれたら、かならずそう答えることにしてる。嘘ではないが、(注3)太古の生物の中でもとりわけ恐竜を好むわけではない。にもかかわらずそう言うのは

「そのほうがわかりやすいだろう」と感じるからだ。そう答えると、大人は「ああ、男の子だもんね」と勝手に納得してくれる。

「あと、もつと前の時代のいろんな生きものにも、いっぱい、いっぱい興味がある」

他の大人の前では言わない続きを、するりと口から出た。

エディアカラ紀、海の中で、とつぜんさまざまなかたちの生物が出現しました。

体はやわらかく、目やあし、背骨はなく、獲物(え)をおそうこともありませんでした。エディアカラ紀の生物には、食べたり食べられたりする関係はありませんでした。

図鑑を暗誦(しよう)した。

草児は、そういう時代のそういうものとして生まれたかった。同級生に百円をたかれたり、喋っただけで奇異な目で見られたり、こつちはこつちでどう見られているか気にしたり、そんなんじゃなく、静かな海の底の砂の上で静かに生きているだけの生物として生まれたかった。

「行つてみたい？ エディアカラ紀」

(a) 唐突(とうとつ)な質問に、うまく答えられない。この男は「エディアカラ紀」を観光地の名かなにかだと思っているのではないか。

「タイムマシンがあればなー」

でもソウジユウできるかな。ハンドルを左右に切るような動作をしてみせる。

「バスなら運転できるんだけどね。おれむかし、バスの運転手だったから」

男の言う「むかし」がどれぐらい前の話なのか、草児にはわからない。わからないので、黙つて頷いた。むかしというからには今は運転手ではなく、なぜ運転手ではないのかという理由を、草児は訊ねない。男が「いろいろ」の詳細を訊かなかつたようだ。

男がまた、見えないハンドルをあやつる。

一瞬ほんとうにバスに乗つているような気がした。バスが、長い長い時空のトンネルをぬけて、しぶきを上げながら海に潜つっていく。いくつもの水泡が、窓ガラスに不規則な丸い模様を走らせる。

視界が濃く、青く、^(二)ソまつていく。

海の底から生えた巨大な葉っぱのようなカルニオディスクス。^(注5) 楕円形にひろがるディッキンソニア。^(注6) ゆつたりとうごめく

生きものたち。自分はそれらをいちいち指さし、男は薄く笑つて応じるだらう。バスは音も立てずに進んでいく。砂についたタイヤの跡はやわらかいカーブを描き、その上を、図鑑には載つていらない小さな生きものが横断する。

そこまで想像して、でも、と呟いた。

「もし行けたとしても、戻つてこられるのかな?」

タイムマシンで白亜紀に行つてしまふアニメ映画を、母と一緒に観たことがある。その映画では、途中でタイムマシンが恐竜に踏み壊されていた。その場面は強烈に覚えているのに、主人公が現代に戻つてきたのかどうかは覚えていない。

男が「さあ」と首を傾げる。さつきと同じ、他人事のような態度で。

「戻つてきたいの?」

そりやあ、と言いかけて、自分でもよくわからなくなる。

「だつて、えつと……戻つてこなかつたら、心配するだらうから」

草ちゃんがどこにでも行けるように、と母は言つてくれるが、タイムマシンで原生代に行つて二度と帰つてこなかつたら、きつと泣くだらう。

「そうか。だいじな人がいるんだね」

おれもだよ、と言いながら、男はゆっくりと、草児から視線を外した。

⑨「タイムマシンには乗れないんだ。仕事をさぼつて博物館で現実逃避するぐらいがセキノヤマなんだ、おれには」「さぼつてるの？」

男は答えなかつた。意図的に無視しているとわかつた。そのかわりのように「ねえ、だいじな人つて、たまにやつかいだよね」と息を吐いた。

「なんで？」

「やつかいで、だいじだ」

空は藍色の絵の具を足したように暗く、公園の木々は、ただの影になつていて。きみもう帰りな、とやっぱりへんな、すくなくとも草児にはへんだと感じられるアクセントで言い、男が立ち上がる。うまい棒のかけらのようなものが空中にふわりと舞い散つた。

（寺地はるな『タイムマシンに乗れないぼくたち』）

（注1）古生代：約五億四千二百万年前～約二億五千二百万年前の時代。

（注2）非常食然：見るからに非常食らしい。

（注3）太古：おおむかし。

（注4）エディアカラ紀：約六億二千万年前～約五億四千二百万年前の時代。

（注5）カルニオディスクス：六億年くらい前の浅い海に生息していた謎の生き物。

（注6）ディッキンソニア：六億年くらい前に海中に生息していた生物の一種。

（注7）白亜紀：約一億四千五百万年前～六千六百万年前の時代。

（注8）原生代：約二十五億年前～約五億四千二百万年前の時代。

問一　――線②のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

問二　――線②「唐突な」・③「意図的に」は――ではどういう意味ですか。最も適当なものをそれぞれ後の中から選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|-------|---------|----------------|
| Ⓐ 唐突な | ア おかしな | ア よく考えずに思いつきで |
| | イ ささやかな | イ 自分の意志とは関係なく |
| | ウ あさはかな | ウ いじわるな気持ちを持つて |
-
- | | | |
|--------|---------|--------------------|
| Ⓑ 意図的に | ア だしぬけな | ア はつきりした考え方や目的があつて |
| | イ ささやかな | イ 自分の意志とは関係なく |
| | ウ あさはかな | ウ いじわるな気持ちを持つて |

問三　――線①「風に吹かれた草が揺れ――いるようだつた」とありますが、どのようなようすをたとえたものですか。本文中から一文を抜き出して初めの五字を答えなさい。

問四　――線②「また別の話なのだ」とあります、これはどのようなことを言っているのですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- | |
|--|
| ア 両親の離婚 <small>りこん</small> を受け入れることで他人のような名前になり、別的人生が開けたということ。 |
| イ 両親の離婚を受け入れたものの、母の名字を名乗ることはまだ受け入れられないということ。 |
| ウ 両親の離婚を受け入れても、自分には解決しなければならない学校の問題がまだたくさんあるということ。 |
| エ 両親の離婚を受け入れて母の名字を名乗ることになり、父とは異なる生き方をすると決心したということ。 |

問五 線③「そんなふうに」とありますが、どんなふうにですか。次の文の□にあてはまるところを本文中から三十五字以内でさがし、初めと終わりの四字を抜き出して答えなさい。

教室の生徒たちの□三十五字以内というふうに

問六 線④「草児の心はなぐさめられる」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 透明な仕切りごしに友人たちを観察することで、毎日の生活にあきあきすることがないから。
- イ 世界と自分との間がへだてられていると思うことで、支配や圧力からのがれることができるから。
- ウ この学校になじめないのでないと思いこむことで、友人たちにも優しく接することができるから。
- エ 自分はクラスの一員ではなく外部の人間だと思うことで、疎外感や孤独感を味わうことがないから。

問七 □A・□Bに入るこことばとして最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。同じ記号を使つてはいけません。

ア たいてい イ いやいや ウ めつたに エ いそいそと オ ずいぶんと

問八 □Cには体の一部を表すことばが入ります。漢字一字で答えなさい。

問九

——線⑤「一色の絵の具で塗りつぶしたような毎日」とあります、どのような毎日ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア どんなことに対しても興味を示す毎日。

イ 他人には理解できない世界に生きる毎日。

ウ 何の変化もなくて同じことをくり返す毎日。

エ 自分が気に入った楽しいことばかりする毎日。

問十 《》線「このあいだ」は直接どのことばにかかりますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

このあいだ ア
ムササビの
骨格標本を イ ウ
見上げていた
男が オ オ
草児の
すぐ後ろに カ キ
立つていた。

問十一 ——線⑥「お菓子」とあります、『男』にとつて「お菓子」はどのような存在ですか。本文中から六字で抜き出して答えなさい。

問十二 D に入ることばとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 不安にさせて イ 気持ちを支えて ウ 新幹線をとめて エ おなかを満たして

問十三 一線⑦「恐竜とかが、好きだから」とあります、草児はなぜこのように答えるのですか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 多くの人たちも恐竜が好きだから
 イ 博物館の展示を代表する生き物だから
 ウ 大人たちの誰だれしもが認める答えだから
 エ 男の子にとつては恐竜があこがれの生き物だから

問十四

一線⑧「他の大人の前では言わない続きが、するりと口から出た」とありますが、それはなぜですか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 男は草児と同じように博物館に通い、子どもが好きなお菓子を多く持つていて、何でも話せる父のように思われるから。
 イ 知らない大人にいきなり話しかけられて緊張したため、いつもとは違ちがつた自分らしくないふるまいをしてしまったから。
 ウ 草児が泣いても男は少しも嫌いやな様子を見せないので、何を言つても決して怒おこらない大人だということがわかつたから。
 エ 男は他の大人とは異なり、草児の言葉に関するくわしく聞き出そとはせず、そのままの草児を受け入れてくれるから。

問十五

一線⑨「タイムマシンには乗れないんだ」について、次の(1)・(2)の問い合わせに答えなさい。

- (1) 草児や男は、なぜタイムマシンに乗れないと思っているのですか。本文中のことばを用いて、「から」ということばに続くように、三十字以内で答えなさい。
- (2) 男はなぜタイムマシンに乗りたいと思っているのですか。「と思っているから」ということばに続くように十字以内で答えなさい。

問十六 この文章を読んで、草児と男についての説明として最も適当なものを次の 中から選び、記号で答えなさい。

- ア 草児は男の考え方や態度が変だと感じているが、男も自分に心を開かない草児に好感をいだくことができずにいる。
- イ 草児はタイムマシンに乗つて大昔へ行くことに対する戸惑いまどがあり、男はそんな草児の気持ちに共感を覚えている。
- ウ 男は仕事に行かず博物館で過ごす時間を生きがいにしていて、草児はそんな男の行動をだんだん理解し始めている。
- エ 男は大切な人に対する思いを草児に打ち明けたが、草児はそれよりも図鑑かんにのつている恐竜の話をしたいと思っている。

二 次の文章を読み、後の問い合わせに答えなさい。

プラスチックごみは、^①解決が難しい社会的な問題という点で、地球温暖化に似ている。やるべきことはわかっている。正規の処理ルートに乗らないプラスチックごみを減らすことであり、石炭や石油の消費による二酸化炭素の排出を抑えることである。だが、いすれも、わたしたちの生活をしつかり支えているものだけに、その実行は容易ではない。市民のほかにも国や関連業界など関係者が多く、利害を含め、それぞれが別の思惑をもっている。市民のなかにも、さまざまな考え方がある。ここでは、わたしたち「市民」について、もうすこし考えておこう。手元の国語辞典には「市の住民」「国家への義務、政治的な権利をもっている国民」「近代史のブルジョア」とある。社会学事典を開くと、この2番目の点について、共同体の意思決定のない手とも書かれている。

たしかに、わたしたちは意思決定の主体だ。だが、さきほど述べたように、わたしたち個人にはいろいろな好みや考え方があり、それを単純に足し算する多数決のような意思のはかりかたでは、社会の分極を招くだけだ。プラスチックのごみの現状、^{注1}マイクロプラスチックの問題点などを把握したうえで、自分の考えを柔軟に修正していく必要がある。多少は自分の好みに合わなくとも、プラスチックごみ問題の解決のために一肌ぬぐう。これは、いわば理性による判断だ。

一方で、理屈ではなく気分による行動も、きっと大切なのだ。最近、会議などに出席していて感じるのだが、飲み物を自分のボトルに入れて持ち歩いているマイボトル派が、すこしづつ増えているようだ。マイボトルが増えれば、ペットボトルのごみも減らせるだろう。出張先で買ったのだろうか、外国の研究所のロゴが入っていたりして、ちょっとカッコいい。この「カッコいい」は、プラスチックごみの問題をみんなで考え、解決へ向けた流れをつくるための原動力になるのではないだろうか。

わたしがいま教っている東京大学の大学院生に、「海のプラスチックごみ問題を解決する方法を考える」という課題を与えたところ、「プラゼロラベル」というマークの普及を提案したグループがあつた(図)。プラスチックを使つていらない製品に

このマークをつけ、プラスチック不使用を付加価値として消費者にアピールしようというのだ。プラスチックを使うべきところには使い、さして必要でないならば積極的にプラスチックを省いて、それを付加価値にする。プラゼロラベルがついている製品を持ち歩くのは、ちょっとカッコいい。そういうことだ。小さなことかもしれないが、頭でなく心で感じるプラスチックごみ対策のアイデアといえるだろう。

⑧

組むし、スポーツイベントには「日本中が興奮」して「オールジャパン」で声援を送ろうとする。プラスチックごみ追放の合唱のなかで、プラスチックを使う人が非国民あつかいされるような社会でも困る。



図 東京大学の大学院生たちが考えた「プラゼロラベル」。プラスチック不使用の製品につけて付加価値を高める。デザインしたのは陳山雨さん

市民の意識が変わり、それが力となって国が変わり産業が変われば、社会は変わる。石油をこのまま野放図に使い続けられないかもしないという危機感で世界が混乱した1970年代の石油ショック。これを機に、日本では自動車の燃費が大幅に改善された。少ないガソリンで動く自動車を求める市民の気持ちが強くなつたことが、誘因のひとつだらう。燃費のいいクルマは、懐にやさしいし、生活スタイルとしてカッコいい……。

「ティッピングポイント」という言葉がある。なにかがすこしづつ変化していくのに、あるところを境になだれを打つて急変する、その転換点のことだ。一部のマニアのものだったパソコンはすこしづつ利用者が増え、1990年代半ばになつて急に社会に広まつた。地球温暖化の科学でも、減少を続ける北極海の氷が、もうもとに戻れないティッピングポイントを越えているのではないかという議論がある。

プラスチックごみにしても、「カッコいい」と思つて関心をもつ市民が増えていけば、ほどなくティッピングポイントに達して、さらに大きな広がりをみせるかもしれない。そのとき注意したいのは、たんなる勢いにならず、一方で冷静な関心を保つておくことだらう。日本の社会は、全体が盛りあがると問答無用の雰囲気になりがちなので、その点がやや心配だ。戦争

中で大政翼賛会が「進め一億火の玉だ」と戦意をあおり、いまでも会社に不祥事があると「全社一丸」となつて信頼回復に取り組むし、スポーツイベントには「日本中が興奮」して「オールジャパン」で声援を送ろうとする。プラスチックごみ追放の合唱

このマークをつけ、プラスチック不使用を付加価値として消費者にアピールしようというのだ。プラスチックを使うべきところには使い、さして必要でないならば積極的にプラスチックを省いて、それを付加価値にする。プラゼロラベルがついている製品を持ち歩くのは、ちょっとカッコいい。そういうことだ。小さなことかもしれないが、頭でなく心で感じるプラスチックごみ対策のアイデアといえるだろう。

⑥⑦⑧

「カッコいい」に期待したいのは、プラスチックごみの問題に対する一人ひとりのアンテナの感度を高める効果だ。ニュースで見聞きしたとき、なにか^(注6)施策が動こうとしているときに、そちらに自然と注意が向くこと。そのうえで、プラスチックごみ問題の優先度や対策について頭で考え、冷静にバランスのよい判断をくだす。その判断を支える助けになつてほしいと願いながら、この本を書いた。

(9)
ほさかなおき『海洋プラスチック 永遠のごみの行方』

(注1)マイクロプラスチック：小さなプラスチックごみのこと。

(注2)野放図：周りのことを考えないで行動すること。

(注3)誘因：あることがらを起こす原因。

(注4)大政翼賛会：戦時中に作られた政治団体。

(注5)不祥事：よくないことがらや事件のこと。

(注6)施策：主に政治的に行う行動や手段のこと。

問一 ~~~~~~線~~ ①「一肌ぬぐう」・②「問答無用」はどういう意味ですか。最も適当なものをそれぞれ後の中から選び、記号で答えなさい。

- ア その人のために自分の力をつくそう
 イ その人のためにしっかりと考え方
 ウ その人のために初めから考え方
 エ その人のために思いこみを捨てよう
- ア 活発に議論しないこと
 イ 答えが見つからないこと
 ウ 話し合いが成立しないこと
 エ 最初からあきらめてしまうこと
- ① 一肌ぬぐう
- ② 問答無用

問一　——線①「解決が難しい社会的な問題」とあります、なぜ解決が難しいのですか。次の中からあてはまらないものを選び、記号で答えなさい。

ア 市民ということばが、ほかの環境問題と同じように複雑で理解されにくいから。

イ 現在のような便利さや快適さが失われて、生活が成り立たなくなつてしまふから。

ウ 多くの人間がかわっていて、それぞれの利害や考えが複雑にからみ合つているから。

エ そこに住む人々には多種多様な考え方があり、一つの意見にまとめるることはできないから。

問三　——線②「わたしたちは意思決定の主体」とあります、現代の社会ではどのような方法で「意思決定」していると筆者は考えてありますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア リーダーが自信を持って決定する方法。

イ 賛成者の数が多い考え方を採用する方法。

ウ みんなが同じ考えになるまで話し合う方法。

エ 反対者の考えも生かしていくようにする方法。

問四　——線③「理性による判断」とあります、ここではどうすることですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 問題点を理解し、解決のために自分の考えを適切に直していくこと。

イ 改善する点を見つけ出し、過去のやり方を参考にしながら行うこと。

ウ 原因を考えて最善の方法にたどり着くために、感情を大切にすること。

エ 知識をフル活用し、どこから見ても欠点のない解決策を提案すること。

問五

——線④「理屈ではなく気分による行動」とありますが、どのように考えて行動することですか。本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問六

——線⑤「飲み物を自分のボトルに入れて持ち歩いている」とありますが、人々はどのような目的でこういう行動をとっているのですか。「目的」ということばに続くように十五字以内で答えなさい。

問七

——線⑥「心で感じるプラスチックごみ対策」とありますが、これはどのような対策ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人の心理を利用した対策。
- イ 人の改心をうながす対策。
- ウ 人の良心を逆手さがに取る対策。
- エ 人の本心を見すかした対策。

問八

——線⑦「ティッピングポイント」とありますが、そのことばの意味を具体的に説明した部分を本文中から四十六字でさがし、初めと終わりの四字を抜き出して答えなさい。

問九

——線⑦「ティッピングポイント」とありますが、そのことばの意味を具体的に説明した部分を本文中から四十六字でさがし、初めと終わりの四字を抜き出して答えなさい。

問十　——線⑧「プラスチックを使う人が非国民あつかいされるような社会」とありますが、どのような「社会」ですか。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

- ア プラスチックを使う人は日本人の数に入れない社会。
- イ プラスチックを使う人が自由をうばわれるような社会。
- ウ プラスチックを使う人のすべてを否定してしまう社会。
- エ プラスチックを使う人に国民としての権利をあたえない社会。

問十一　——線⑨「アンテナの感度を高める」とあります。最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

- ア プラスチックごみの問題の判断をささえる助けになること。
- イ プラスチックごみの問題に自然と注意が向くようにすること。
- ウ プラスチックごみの問題の優先度や対策について頭で考えること。
- エ プラスチックごみの問題に冷静でバランスの良い判断をくだすこと。